

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 3 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	糀谷保育園			
事業所連絡先	〒	144-0034		
	所在地	東京都大田区西糀谷2丁目14番18号		
	TEL	03-3744-9861		
事業所代表者氏名	本田 真希子			
契約日	2024 年	4 月	1 日	
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年	6 月	20 日	
利用者調査結果報告日	2024 年	8 月	23 日	
自己評価の調査票配付日	2024 年	6 月	20 日	
自己評価結果報告日	2024 年	8 月	23 日	
訪問調査日	2024 年	8 月	30 日	
評価合議日	2024 年	8 月	30 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和6年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 25 日

事業者代表者氏名

本田 真希子

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none">1) こどもの自己肯定感が育つ保育園2) こどもが主体的、意欲的に遊べる保育園3) こどもが自ら育とうとする力を支えられる保育園4) 保護者に信頼され支えられる保育園5) こどもも大人も楽しいと思える保育園
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none">・専門的知識やスキルを駆使し保護者やこどもに向き合える人材・保育体制の問題や多様な保育ケースについても、最後まで責任感をもち、やり遂げる力がある人材・公務員としての自覚をもち限られた人材、予算の中で職務を遂行する人材 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none">・こども・保護者・同僚を肯定的に見る目を養うこと・専門職という意識をもち、保育士間や他職種と連携をとりながら実践能力があること・園内の課題を発見し、発信する力があること

調査対象

2024年6月20日現在の施設の利用者(保護者) 100世帯(利用者総数 119名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

119

100

100

52

52.0

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(100%、52人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか

(各々 100%、52人)

問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか

(96%、50人)

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	52	0	0	0
<p>いろいろな遊びを取り入れてくれており、学んで帰ってきているのが分かった。 いろんなことを覚えてきて、親から教えられないことも学んでくれるので助かってます。 友達との関わり方、折り合いの付け方がとても上手になりました。失敗を恐れる性格ですが、挑戦することを楽しみ、肯定感も上がったように感じます。出来ることも増え、心身ともに成長を感じています。 などの意見があった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	52	0	0	0
<p>植物を育てたり、育てた野菜を調理したり食育を楽しんでいます。 月齢、年齢に合わせた刺激があり、自宅でも楽しそうに話してくれます。 絵を描いたり、工作することが好きで、思い切りやらせてくれて嬉しく思います。 家ではあまりやらない季節モノをやっていたいので、日本ならではの文化など保育園を通して学んでいる。 などの意見があった。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	49	3	0	0
<p>偏食が著しいのですが、園長先生や担任の先生が、とても柔軟に対応して下さるので感謝しています。夏場の水分が摂りにくい時期など、気にかけて声をかけて下さったので、とても嬉しかったです。 とても美味しそうな献立で、素材や味付けがとても良いと思います。以前は、こどもたちの食べているものを味見させて頂きました。また、栄養士さんによっては、食育のことをコラムに書いてくださったり、保護者向けの簡単なクッキングも教えてくださり楽しかったです。などの意見があった。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	46	6	0	0
毎日のお散歩はとても楽しみにしているようです。 といった意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	41	11	0	0
時間に遅れる旨の連絡を入れると『急がず気をつけてきてください』と言ってくださる。 この点はとても柔軟で助かっております。 などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	10	0	0
柵などで対策はできていると思う。 訓練などしっかりやっていただけだと思います。一度、保育参観の時に地震があったのですが、しっかりと動いている姿を見て、 訓練の成果だと思いました。 などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	17	1	0
年間行事で早めに日程がわかっているものは参加しやすいです。 年間予定があり、早めに分かっているため、とても助かります。 4月に年間行事表をいただけるのでとても助かりました。 などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	46	6	0	0
少しではありますが毎日いろんな話はできています。 連絡ノートを作って、先生方とやり取りさせて頂いています。 今のところ相談することがほとんどないですが、いざとなったら聞いてもらえると思います。 などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	40	10	1	1
不快に思うようなところは全くありません。 といった意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	45	7	0	0
全然気にならないです。 区立の先生方はみなさん、声のかけ方がポジティブだし、優しいので、すごく勉強になります。子どももお陰で萎縮せず色々とお話し できているとおもいます。 などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	48	4	0	0
<p>迅速な対応に感謝しています。 いつも、とても丁寧に対応してくださっています。 少しの怪我でもお迎えの時に教えてくれますし、咳の具合とかも気にかけてくれていると思います。 などの意見があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	42	10	0	0
<p>きちんと報告してくださり信頼しています。 こどもから理不尽に怒られたなどは聞いたことがありません。 いつも降園時にどういトラブルがあり、どう対処していて、様子はどうかというのを伝えてくれるので安心です。 などの意見があった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	2	0	0
<p>本人のペースをととても大切にしてくれ、性格や気持ちに合わせて挑戦しやすい環境を整えてくれています。 喧嘩の仲裁も、それぞれの意見や、状況をきいてくださっていて、大変ありがたいです。 毎朝、気持ちが不安定で登園する息子ですがその気持ちをいつもしっかり受け止めてもらってすぐに楽しそうな姿が見られる為。 などの意見があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	46	6	0	0
<p>気になったことはありません。 といった意見があった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	46	5	0	1
<p>すすすくの面談の時に教えていただいています。 保護者会で子供の様子や、方針など丁寧に説明してくださります。 こどものどんなところを大切にしていきたいか伝えてくれている。 などの意見があった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	46	6	0	0
<p>園長先生に共有されていて園長先生からお話し頂くことがあったので安心しました。 以前クラスの先生に少しお伝えした際にすぐ気づいてくれ、お迎え時にゆっくり話を聞いてくれました。ありがとうございます。 もし何かあれば話は聞いてくれると思います。 などの意見があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	35	15	2	0
<p>まだそのような場面がありません。 といった意見があった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	園長は園の目標、考えや想い、大事にしたい事を紙面で説明し職員と意識を共有している 毎年、年度初めの職員会議で園の全体的な計画や、また保育目標、保育理念、園長の考えや想い、大事にしたい事について必ず紙面で提示して園長が説明し、全職員が同じ意識を持てるようにしている。玄関入り口には大きな額で基本方針、運営及び保育方針、園目標を掲示して常に誰でも見られるようにしている。保護者に向けては入園のオリエンテーションや保護者会の時に園目標や理念、保育方針、保育園の役割をパワーポイント資料で説明する事で理解を深めている。さらに毎月配信している園だよりにも必ず園目標が記載され、確認できるようにしている。 園長は課題の発見や解決に向けてプロジェクトチーム体制を作り園運営をリードしている 園長は年度初めの職員会議で自身の考えや想いを自らの役割と責任において全職員に伝え共通認識が持てるようにしている。さらに職員の個別面談の中では個々の役割や責任について明確にしている。園では園目標や目指す姿の実現のために、発生する課題の解決に向けて4つのプロジェクトチーム(PT)制をとり、各職員が参加して主体的に活動が出来る体制を作っている。各PTの内容や方向性、また進め方については園長、副園長とリーダー層で確認、相談してから取り組み、5月の職員会議で年間計画を承認して進めており副園長とともにリードしている。 園の案件はリーダー会議で決定し重要案件は職員会議で園長が紙面で全員に周知している 園の案件は園長と副園長で検討後リーダー会議におろして具体的な内容を検討し決定している。また案件内容によってはプロジェクトリーダーとの打ち合わせ、或いはリーダー層からクラス内で意見を集め、最終的に園長が意思決定する場合もある。決定内容は園長からリーダー会議で伝え、職員会議で周知、伝えきれない場合はリーダーから職員に伝えている。重要な内容の場合は、園長が必ず紙面にして全員に伝えている。決定経緯が分からないという職員意見もあることから、今後はリーダー会議で討議の経緯も交えた記録化と意識した説明も進められたい。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者の意向は常に把握しており今後は年間で総合的な意見の収集も検討を進められたい</p> <p>保護者の意向や意見は、保護者参加の行事後に電子アプリのアンケートを毎回行い、結果は集約してクラス打ち合わせで内容を確認して次に向けて検討することや、口頭で保護者に回答している。また保育参観後の面談時に保護者の考えやニーズを聞き取ることや、送迎時のコミュニケーションの中で家庭での出来事や子育ての想いを把握しクラス打ち合わせの中で共有している。なお行事アンケートに加え、年度末には、園の保育の取り組みや運営に関する総合的なアンケートを電子アプリで実施し、保護者の意見を把握する仕組みの導入の検討も進められたい。</p> <p>職員の意向や意見は、日頃の会議や打ち合わせ時、定例の面談時に把握して対応している</p> <p>職員の意向や意見は、リーダー会や職員会議、クラス打ち合わせの中、また「一般職員面談シート」により年2回の園長面談時や希望があれば都度の面談で把握している。把握できた内容によっては、速やかに園長、副園長で検討して対応している。対面では言いづらいことや、クラスでは保護者面談などで時間が取れない事の声もあり、今後は園長面談に加えて、職員の想いや考え、意見等を聞く機会として副園長との面談や主査との面談なども組み合わせる事の検討も進められたい。会計年度任用職員は年度末に面談して次年度の意向や意見を聞く機会を持っている。</p> <p>地区のこども地域会議に参加し有効な情報は職員と共有して地域支援に活かしている</p> <p>糀谷羽田地区こども地域会議は年2回開催され、メンバーは町会長、近隣園長、児童館、主任児童委員、行政や社福協等33名の登録があり、小学校の情報や児童館の取り組み、地域防災の共有、児童委員との顔つなぎなど情報を得る有意義な場として参加している。情報は職員に報告し、地域の子育て情報は子育て支援プロジェクトチームと共有して地域支援に活かしている。園長は地域の子育て支援に加え、町会の高齢者の方々との伝承遊びや、区民の方のボランティアなど交流が広がる事を期待している。区の園長会や幹事会の内容は職員会議で共有している。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
こどもの人権に関しては園内研修のグループワークで職員間の意識の差をなくしている 保育園運営マニュアルの中に児童憲章、児童福祉法、全国保育士会倫理綱領等の記載の中から一部を年度初めに確認と読み合わせを実施、また個人情報保護の取り扱いや情報セキュリティについては職員会議の中で読み合わせをして再確認している。園内研修プロジェクトチーム主催で6月には人権擁護セルフチェックを実施し個人の振り返りをし、園内研修として事例に基づきグループワークを行い、職員間の意識の差をなくするための話し合いを効果的に進めている。なお不適切な保育の事例などは区の主任会の課題として取り上げ冊子を作ったものも活用している。		
入園時に苦情受付や第三者機関へ相談出来る事の説明を視覚的に行い理解を深めている 保護者には入園時のオリエンテーションの中で苦情受付のための第三者機関の説明をパワーポイントで視覚的に行っており、玄関の掲示や大田区福祉オンズマンのポスター等第三者に相談できる事の理解が深まってきている。保護者から受けた意見は速やかに園長へ報告し事実関係を確認して保護者対応を組織的に行っている。園の第三者委員は地区別に区で任用のお願いをしている為、今までコミュニケーションは取っていないが、園として園長会で紹介してもらおう事や、或いは年度の報告をメールで実施する等一度コミュニケーションを取る方法は検討されたい。		
虐待に対する組織的な対応は園内研修プロジェクトチームの人権研修で意識を高めている 虐待に対する組織的な対応として、年度初めの職員会議や園内研修プロジェクトチームが主催する人権に関する内容を盛り込み、虐待は勿論、そうと思われる行為に関しても繰り返し確認している。不適切な保育に関わる事例の研究や人権擁護のためのセルフチェックリストを毎年個人が行い虐待も含めて自身の行動を照らし合わせて確認をしている。また家庭での情報が入る事や、疑われる痕跡を発見した時には園長を中心に担任と情報の共有と事実の精査を行い、必要に応じて子ども家庭センターと連絡を取るなど、迅速に連携を取るようにしている。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>園のリスクに関しては2つのプロジェクトチームが率先して対応策を立案し実施している</p> <p>園の立地条件や周辺環境からリスクを「不審者侵入」「飛び出し事故」「雨の日の入り口が道路沿い」と考え不審者訓練や警察署の講話、オートロック、飛び出し注意喚起や見失い事故対応訓練等の対策をとっている。また地震や災害、火災に関しては2つのプロジェクトチーム体制で対応策の計画を策定し確実に実施している。危機管理プロジェクトチームは主に安全計画の作成と実践、福祉避難所・応急保育所プロジェクトチームは業務継続計画に基づいて対策を講じている。園内で起きる事故等のリスクは事故対策チェックリストで洗い出しを行い改善している。</p> <p>事業継続計画は具体的で福祉避難所、応急保育所を想定した訓練を計画し実施している</p> <p>園の業務継続計画(BCP)は具体的に行動する事が明確になっており、福祉避難所・応急保育所プロジェクトチームが主体となって見直しも含めて行っている。見直しや差し替えの内容は職員会議で読み合わせを行い職員間で共有している。BCP発動時の福祉避難所として、また応急保育所として公開訓練や合同訓練も計画して実施している。安全計画は保護者会での説明で理解を深めてもらう機会があり、加えて業務継続計画についても園の取り組みを伝えるよう進められた。また地域の関係者、町会や児童館、園医などとも共有していく方法を考えられた。</p> <p>個人情報の取り扱いは紙情報や電子媒体の管理をルール化し情報管理は適切に行っている</p> <p>園はプライバシーポリシーに基づき個人情報の取り扱い、管理について紙情報は鍵付きの書庫で管理し持ち出しが出来ないようにしている。また電子媒体ではPC、タブレット、携帯電話、SDカード類は個人使用管理簿に記入する事や、パスワード、ログイン等アクセス権限を設け、使用後は必ず事務室に戻し鍵付きの書庫に保管する事をルールとしている。秋からは園舎内のネット環境が整備されPCも各クラスに1台ずつ配備の予定をしている。保護者向けに電子アプリを利用した配信(園だよりや保護者会通知、アンケート他)は権限者のみに限定している。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>園長の人材育成は一人ひとりが園課題に気づきや発見を持ち役割を果たす事と考えている</p> <p>園長の人材育成に向けた基本的な考え方は、一人ひとりが園課題に気づきや発見が持てるように専門職として意識しながら、職種(主任、主査)や経験に伴った役割を果たせるように育成を進めていきたいと考えている。職員会議の中ではキャリアデザインについての説明や、職責に応じた職務の役割や求められる資質、区の研修項目が在職年数ごとに整理された職員育成計画(キャリアパス)を説明して周知している。職員調査では理解できていないとする比率も高いので、今後はキャリアデザインとキャリアパスを組み合わせた説明方法を検討して進められたい。</p> <p>園は園内研修や安全計画研修、職員の希望を優先する外部研修他豊富な機会を設けている</p> <p>園は豊富な研修機会を設けて職員の自主的な研修希望を優先しつつ、副園長の視点から職員に求められる学びについて発見し研修参加を促している。園長との職員面談シートで打ち合わせ時に、年間の研修計画について職員自身が作成し、その内容について助言を行い研修参加に繋げている。また園内研修プロジェクトチームは年間の人権擁護に関する研修を企画して進めている。安全計画の年間研修計画では救命講習など心肺蘇生法の研修や嘔吐処理研修他、業務継続計画では防災関連学習や防火・救命の学習他を、会計年度任用職員も含めて全職員で受講している。</p> <p>事務処理時間の改善に向けて個々の仕事の内容や必要な時間の目安の視覚化に期待したい</p> <p>安心して働ける職場づくりに向けて園は事務処理時間の捻出を課題として捉え、フリー職員や会計年度任用職員にクラスに入ってもらい時間内に事務が進められるように体制やシフトの変更をしている。事務処理時間の改善は進んでいるが、一方で残業や業務が滞っている職員には都度声を掛け超過勤務申請を時間外在籍エラーにならない様に注意している。職員調査でも業務の効率化を求める意見も多く、現在副園長が現状分析として個々が抱えている仕事の内容や必要な時間の目安を視覚化する準備をしており、今後の実施と結果を見通した対策立案に期待したい。</p>		

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

従来の会議は聞く事が多く受動的な姿が目立ち、職員間で保育の話をする時間も減り、保育観の伝え合いやこどもを理解する視点、共有する機会が少なくなり、また会議のための資料作成も多く効率的な会議の進め方に課題があった。目標を「職員会議内容の見直し」と定め、能動的な参加ができ自分の保育を言葉で話すスキルアップや、お互いに保育観を話し合う事で同僚性の強化をねらいに次の取り組みを始めた。

①職員会議の月案反省の形式を、6人程度の小グループに分かれテーマに沿って一人ひとりが発表するように変更

②自分のクラスの保育や子どもの成長発達を伝える経験を積み重ねた

③会議の時間短縮を図り、会議のための資料作成をなくした

その結果、自身が発言する事で能動的な参加に変わり、また保育に関する語彙や表現も豊かになった。話し合う時間はお互いに意志の疎通ができ、こどもを見る視点が増えこどもの理解の幅が広がった。なお効率的な会議は時間短縮に繋がった。

今後は、小グループで話す内容を職員の関心あるものに設定し意欲的に参加できるように進め、客観的な振り返りは保育実践に活かせるようにしていく。また職員会議以外の打ち合わせも同様に内容の効率化を図っていく。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員会議の進め方において、職員の能動的な参加や職員のスキルアップ、お互いの保育観を話し合う事で同僚性の強化、会議時間の有効活用を課題として捉え、職員会議内容を見直す事を目標に課題解決に繋げる取り組みを行っている。

進行方法では、毎月月案反省をクラスの代表が発表する形式から、少人数グループに分かれてテーマに沿って一人ひとりが発表する形式に変更し、それが自分のクラスの保育やこどもの成長発達を伝える経験の積み重ねになるとしている。また会議時間の短縮や会議のための資料作成をなくし事務の軽減を図っている。

職員会議内容の見直しは、一人ひとりの発言の機会が増え能動的な参加に変化し、また保育に関する語彙や表現が豊かになったこと、そして話し合う時間が持てたことでお互いの意思疎通や同僚性が高まってきたことは大きな成果と言える。副次効果では効率的な会議の進行が会議時間の短縮にもつながっている。

今後も少人数グループで話し合う方式を継続し、職員の関心のあるテーマを設定してさらに意欲的に参加できるようにし、職員会議以外の会議・打ち合わせにも水平展開していくことでPDCAを良く回している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

個別対応が必要な園児や配慮が必要な園児の増加、保育時間の長時間化など職員数が必要な時間が増え時間外の業務処理も多く、今いる職員で子どもたちに合った適切な保育内容を考え実現しようとする意識を高めたいと考え、目標を「限られた職員人数の中でできる保育体制の組み方と保育内容の工夫」と定めて次の取り組みを始めた。

- ①時期とこどもの姿に合わせて当番本数の削減や時間の変更
- ②事務時間の保障に向けフリー職員を中心とした応援体制
- ③現在の職員、子どもたち、保護者の傾向に合わせた行事や保護者会内容の企画
- ④遅早番の時間帯と日中の保育のねらいや方法の分化

取り組みの結果、応援体制を組む事で保育補助の体制は組めたが、空いた時間を十分に有効活用まで至らず、時期やこどもの姿に合わせた時間の変更や、当番本数に関しては減らす事ができず課題として残った。しかしクラス間ではパート同士で声を掛け合い応援に入るなど主体的に体制が取れた事や、日中の活動や遅早番の安全保育など状況に応じた保育のねらいを持っていた。今後も当番本数や時間の変更、時間の創出は継続して取り組み、個々が抱えている仕事の内容や必要な時間の目安を視覚化し意識を持てるようにしていく。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園の状況として個別配慮が必要な園児や配慮が必要な園児の増加、保育時間の長時間化など職員数が必要な時間が増え、さらに事務量も多く時間外に処理する事も増えており改善の必要性を考え、限られた職員人数の中で出来る保育体制の組み方と保育内容の工夫をテーマとして活動を始めている。

実施してきた事は時期やこどもの成長の姿に合わせた当番本数の削減や時間の変更、フリーの職員を中心とした応援体制、昨年度のやり方に捉われない行事や保護者会の内容企画、遅早番時の時間帯と日中の担任が揃っている時の保育のねらいや方法の分化等の対応を行っている。

応援体制を組む事で保育補助の体制は整ってきたが、空いた時間の有効活用まで至っていない事や当番本数を減らす事と時間を変更する事は出来ずに課題として残っている。但しクラス間ではパート内で声を掛け合いながら応援に入るなど主体的な体制が取れていた事や、日中の保育はその日のねらいに合わせて行い、遅早番では安全保育を一番にする等状況に合わせた保育のねらいを持つ事が出来ている事は成果と言える。

活動の反省を踏まえ、今後も当番本数や時間の変更、事務時間の創出に向けて継続的に取り組むとしてPDCAを回している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)	
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評			
<p>利用希望者には、区のホームページで見学日の日程や入園申し込み情報を提供している</p> <p>利用希望者に対して、区のホームページには園の施設概要として、保育目標や年間行事、食育活動、地域活動等とともに、園周辺の様子、交通アクセス、連絡先を掲載し、入園の申し込み方法や子育て支援の情報なども掲載している。園の見学希望者に対しては、年間の見学開催日がホームページに掲載されており、把握できるようになっている。また、マイ保育園登録者に対しては電子媒体で園の情報を配信し、情報を提供するなど、利用希望者が必要な情報を手軽に入手して確認することができるようにしている。</p> <p>園の事業内容は、地域の子育てマップへの掲載やパンフレットを公共施設に配付している</p> <p>園の事業内容の情報は、地域で発行している子育てマップや区で発行している子育てハンドマップの子ども子育てマップ欄の保育園情報に園の概要が掲載されている。園のパンフレットは、園の概要や地域に向けた子育て支援の情報を掲載し、園の入り口ポストに手に取れるように置いたり、児童館や園医にも置かせてもらうなどして、地域の保護者がいつでも手に取ることができるようにしている。区に対しては、毎月、在籍情報と感染症情報を報告している。</p> <p>見学の希望は電話で申し込んでもらい申し込み受付表に記録し把握できるようにしている</p> <p>園の見学日はホームページで確認していただき、電話で申し込んでもらい、見学会申し込み受付表に記載し、ファイル化して把握できるようにしている。見学日は年間予定を決め、午前10時と午後は午睡中に実施し、子どもの遊んでいる様子を見てもらおうようにしている。見学者には副園長、フリー職員、地域支援プロジェクトのメンバーが対応し見学のしおり、子育てマップなどを配付している。見学者の持ち物、ベビーカーの置き場、延長保育、おむつの処理などの質問に対し丁寧に答えている。見学後にはアンケートに感想を書いてもらい把握している。</p>			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園の決定後オリエンテーションと面談を実施し、重要事項の説明をして同意を得ている 入園の決定は、行政から保護者に連絡が行き、入園に必要な児童調査票や年齢別の調査票などの書類は、直接園に取りに来てもらっている。その後の土曜日に、入園時オリエンテーションを実施し、重要事項説明書のパワーポイントを作成し、それに沿って園長が説明をしている。保護者から、発熱時のお迎えや土曜保育、延長保育の質問が寄せられ返答が行われている。オリエンテーションは、園長、副園長、栄養士、看護師が役割分担をして園のしおりを基に説明をしている。重要事項説明書や個人情報の利用目的の同意書は、説明当日に提出してもらっている。 保育に必要な情報は入園面談で把握し、区で定めた書式に記録し、職員間で共有している 保育に必要なこどもの情報は、新入園児係のプロジェクトの園長、保育者、栄養士、看護師が、事前に保護者に配付した区で定めた書式の児童票や児童調査票、食材摂取確認表などを基に個別面談を行い、記入した内容を確認している。入園面談で得た情報は、新入園児面談報告の書式に、面談担当の職員が記録し、職員会議で、記録した書式を配付し個々の子どもの情報を共有しクラスで把握して保育ができるようにしている。また、新入園児既往歴一覧表を作成し、全職員が把握して、きめ細かい対応ができるようにしている。 慣れ保育の実施には、こどもの状況に配慮しながら、保護者の職場復帰を目安にしている 入園時の慣れ保育は、おおむね1週間程度を園としては考えているが、こどもの様子や保護者の職場復帰を目安に相談しながら実施している。入園1日目は、保護者と一緒に過ごしてもらい、保育室の雰囲気を感じてもらえるようにしている。2日目以降は保護者とこどもの様子を確認しながら、昼食までや午睡後、おやつを食べるなどして保育時間を延ばし、約束した時間になるようにして。慣れ保育中はこどもの不安を軽減できるように、看護師や栄養士が応援に入り、また保育補助の職員を配置するなどの体制を整えて、個別に関われるようにしている。		

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>こどもの生活や心身状況は、保育活動で把握し、区の統一した書式に記録している</p> <p>日々の子どもの姿は、0歳児から2歳児は連絡帳で家庭での様子を把握し、幼児クラスは、毎朝の健康観察を通して確認し、保育活動の中でも把握し保育日誌の保健欄に個別の健康状況を記録している。0歳児から2歳児は個別日誌を作成し連絡帳とともに、こどもの状況をきめ細かく把握できるようにしている。昨年までは保護者とこどもの育ちを共有するためにすくすくプランを作成してきたが、今年度からは年2回の個人面談として、1回は全員対象に2回目は希望者を募り実施し、面談記録に記録している。これらの記録は、区の統一した書式を使用している。</p> <p>全体的な計画は、園で追加するなどの見直しをし、週の計画は保護者に掲示している</p> <p>区と園長会で作成した全体的な計画の内容を確認し、地域事業などの項目に追加して実情に合うようにしている。園だよりの園目標を毎月掲載し、年間指導計画の共通書式の書き方の視点を統一し、子ども・保育、保護者対応、クラス運営、その他の4つの項目に分類して作成をし、4期に分けて見直しをしている。週の保育の計画内容は、クラスの入り口の掲示板に掲示し、保護者が確認できるようにしている。園長は、クラスから月案や週案の提出があると前月の反省が活かされているかや継続した取り組みになっているかを確認し、指導助言をしている。</p> <p>こどもの情報は、朝礼やクラス内昼礼で把握し、配慮の必要な子の事例を検討している</p> <p>朝礼は、毎朝8時30分から10分程実施し園長、副園長、栄養士、看護師、クラス1名が参加し、職員や延長体制を確認し事務連絡などの情報を朝礼ノートに記録している。クラスごとの遅早連絡簿には、早番職員からのクラスへの伝言や日中のこどもの様子を記入し、遅番職員は保護者に口頭で伝えている。0歳児～2歳児は午睡中の短時間に、午前中のこどもの様子や怪我、受診の有無、引継ぎ事項を確認するなど、こどもの情報を共有している。配慮の必要な子の理解や対応の共有のために丁寧な事例の検討を行い、職員間で同僚性を高める機会になっている。</p>		

サブカテゴリ5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている ○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている ○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている ○非該当
サブカテゴリ5の講評	
<p>区の個人情報保護条例に沿って、重要事項として説明をし関係機関と連携をしている</p> <p>区の個人情報保護条例に沿って、情報の保護や関係機関との連携を図っている。重要事項説明書に、プライバシーポリシーとして、個人情報保護法の掲載をして、個人情報の収集や管理、目的外使用や外部提供についての内容を伝えている。また、個人情報の利用目的の内容について、児童調査票、園だより、クラスだより、連絡帳など7項目を挙げ承諾を得るようにしている。保育所児童保育要録の小学校への提出についてや区立園間の転園の場合の、個人情報の受け渡しについての承諾を得るなど、子どもに関する情報の保護を徹底できるようにしている。</p> <p>こどもの羞恥心に配慮した取り組みや人権の本を園内研修で読み合う機会を持っている</p> <p>こどもの羞恥心に対しては、トイレに衝立を立て、周りから見えないようにするなどの配慮をしている。こどもたちには、着替えの時は中でやるように伝えているので、今後プライベートゾーンの話をする計画をしている。こどもの人権については、園内研修で人権の本を活用しグループワークで内容の読み取りをして共有したり、リフレーミング辞典を作成して意識できるようにしている。人権擁護のセルフチェックは年1回個人での実施で終わっているため、実施方法の検討を考えている。保護者の価値観を尊重できるように、伝え方を複数で確認している。</p> <p>虐待ケースに対応できるように、研修に参加したり、報告内容を決めている</p> <p>虐待や育児困難家庭に対して支援ができるように、研修の機会を逃さず、順番に参加できるようにして、職員会議などで還元できる機会を設けている。虐待ケースを発見した時には、速やかに園長に報告をすることになっている。また、着替えなど発見しやすい状況の中で、見た状況の事実を丁寧に記録することを職員間で確認をしている。個々のケースに合わせて関係機関と連携しながら対応し、職員とは対応後の情報共有を密にしている。今後は虐待マニュアルの周知や読み合わせをさらに強化したいと考えている。</p>	

サブカテゴリ-6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(000)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(00)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリ-6の講評	
業務の標準化を図るために、区のマニュアルを職員間で確認、周知が必要と考えている 業務の標準化を図るために、区のガイドラインマニュアルが整備され、それに基づいて園運営が行われている。マニュアルは、保育を始め、計画に関すること、保健・給食関係、保育連携推進事業などが整備されている。安全保育マニュアルは全職員に配付し、日常保育や危機管理に対する対応を共有する機会に活用している。園長は「新年度にあたって」として、子どもや保護者対応、職員関係などの方針を書面にして配付している。マニュアルの活用が促進されるように、事例を基に内容を職員間で確認したり、周知する機会がさらに必要と園長は考えている。 事務室に保管してあるマニュアルの見直しとともに、園舎内の安全点検も実施している 区のガイドラインマニュアルは、事務室の書棚に保管され、いつでも確認できるようにしている。これらのマニュアルの見直しは、区で国の方針の見直しや新たな提案が行われたことを踏まえて検討や見直しが行われ、その後、園長会などを通して園に下ろされている。園舎内外の安全点検は毎月実施され、点検後には園長に報告されている。年度の初めには、転勤してきた職員もいることから、園舎内のプレーカーの場所、配電盤、ガス復旧弁、水道元栓などの場所の確認が必要と考えている。 業務の見直しに際しては、職員会議で出た意見を基に見直しをして、改善をしている 業務の見直しに当たっては、行事の取り組では、終了時に職員での反省会や保護者からの意見を基に、次年度に活かすことができるようにしている。絵本の貸し出しコーナーが1階玄関近くに設置され、貸し出しノートから前年度の利用状況を把握し、乳児利用が多いので幼児も利用できるようにテラスにも本の紹介を掲示するなど改善をしている。職員会議で月案の反省を紙面で配付して読みあわせていたが、口頭での報告に変更したことで職員からも「そう思っていた」の声が聞かれ改善につながっている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		36 / 36	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>日々の保育や健康観察・連絡帳などから全体的なこどもの姿を把握し、保育に繋げている</p> <p>こども一人ひとりの発達の状態や生活環境を入園前に保護者と確認を交わした書類や日々の保育や毎朝の健康観察・連絡帳・個人面談等を基に全体的なこどもの姿を捉え、保育に繋げている。各クラス年齢に合わせた玩具をこどもの手が届くところに置き、選んで遊ぶことができるように設定する等環境を整えている。登園時には家庭での体調等を含めたこどもの様子を聞き、園での様子はお迎え時の保護者にその日のエピソードを交えたこどもの姿を伝え、共通理解に努めている。</p> <p>日常の保育の中で異年齢児との関わる機会を多く持ち、互いを尊重する心を育てている</p> <p>幼児クラスではスマイルの日と称して異年齢児で遊ぶ日を月に1度設定している。3歳・4歳・5歳から1人ずつの3人で1グループとなり、3グループに分かれ、同じグループの友だちと一緒に体操や運動ゲームを楽しんでいる。日常では園庭で全園児と一緒に遊んだり、散歩に2クラス合同で出かけたりしている。低年齢のこどもたちは、大きなこどもの遊びを見て刺激を受け憧れを抱き、少し背伸びをした遊びにも挑戦をしたり、年齢の大きなこどもたちは、一緒に遊ぶことで自分たちの立ち振る舞いを考え行動するなど、互いを尊重する心を育てている。</p> <p>年長児には小学校との円滑な接続に向けて、文字に関心を深めている</p> <p>就学に向け言葉遊びの中で「あ」のつく言葉探しやひらがな表示の献立表を用いてお当番がみんなの前で献立を読むなど、文字への関心を深めている。同学区へ通学するであろうこども達が在籍している近隣の保育園3園と互いの園で遊ぶなど、無理なく接続できるように交流を行っている。年長児の保護者に向けては小学校の校長の「心構えについて」の講話を聞く機会を設け、小学校での環境など、就学前の心構えを知らせている。年長児は就学に向け1月に入り午睡時間を短くして徐々になくなって行くなど、生活リズムの配慮を行っている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(0000)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>登園時に担当保育士は健康観察を行い、口頭で保護者とこどもの様子を確認している</p> <p>登園時には連絡帳や健康チェックカードを確認して、健康観察を行い昨日からのこどもの様子を口頭で保護者と確認して遅早連絡簿に連絡事項と共に記録している。0歳から2歳クラスでは早朝よりクラス保育を行い、担任が保護者と顔を合わせ家庭での様子を聞き、昨日の保育の様子からこどもの気持ちを察し遊びに向かえるような配慮をしている。年齢の高いクラスでは担当保育士が健康観察を行い保護者に口頭で確認をして遅早連絡簿に記録している。出勤してきた保育士はこどもの様子を見ると共に遅早連絡簿の確認を行い、日々の保育に活かしている。</p> <p>基本的な生活習慣を、一人ひとりの発達に合わせ無理なく進めている</p> <p>基本的な生活習慣の自立は一人ひとりの気持ちを大切に無理なく進めている。0歳児や1歳児は担当制を行い、こどもの発達や特性を見極め援助している。また保育士同士の共通意識が持てるように日々確認を行っている。保護者には健やか子育てだよりやすぐすくパワーで基本的な生活習慣の大切さを知らせている。自立に向けては保護者の意向も確認しながら一緒に進めている。家庭での睡眠時間の短い子には食事時間を早め布団に入る準備をしたり、午前寝が必要な子どもには部屋の隅に布団を用意して、一人ひとりの生活リズムを整えている。</p> <p>保育活動の様子をクラスボードで写真と共に掲示して、口頭や連絡帳で知らせている</p> <p>日中の保育活動の様子を0歳児から2歳児クラスは連絡帳で知らせると共に降園時には、口頭でエピソードを交えて伝えている。3歳児から5歳児クラスではクラスボードに活動内容の様子と写真を貼り、一人ひとりの保護者にエピソードと共に口頭でこどもの様子を伝えている。各クラスともに担任が17時45分まで保育をしている為に伝えやすいものとなっている。合同保育時には遅早連絡簿を基に担任と当番保育士が引継ぎを行い、エピソードも交えて伝えられる工夫をしている。保護者からの伝達事項を記録し、次の朝の朝礼で職員の周知を図っている。</p>			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(000000)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>こどもが主体的に遊びに向かえるように、環境の見直しを行っている</p> <p>昨年、2歳児クラスでは園内外に向け「環境構成をより良く」というテーマで2度にわたり公開保育を行っている。こどもが主体的に活動するための環境を考えて行くことの大切さを学び、楽しい遊びがイメージでき、生活の流れが見通せる環境作りを念頭に行い、部屋に入った時に玩具が見えるような棚を配置している。たくさんあった玩具を整理してコーナーごとにじっくり遊べる環境作りを行うことで、集中して遊ぶ姿を見ることができるようになっている。1歳児クラスも環境を考え、受け渡しの場所の環境を変えたことにより、遊びに変化が見え始めている。</p> <p>こどもの身振りや指さしを言葉に替え応答することで、言葉を知らせている</p> <p>年齢の小さなこどもの指差しや身振りを言葉に替えて応答し言葉を知らせている。0歳児クラスでは手をぐるぐる回して手遊びを要求したり、人差し指を立てもう1回のアピールなど、表情や動作で知らせた思いに答え要求を受けている。絵本と一緒に読み指差しをした先を見て「いたね」と共感したり園庭で見つけたちょうちょやアリと一緒に眺め「ちょうちょいたね」「アリさんきたね」と思いを言葉にして返すなど言葉を知らせている。年長組では「ふわふわことば」と「ちくちくことば」について考え人と関わる時に気持ちの良い言葉を一緒に考えている。</p> <p>戸外活動を十分に行い楽しく遊ぶためのルールを、こどもと一緒に考えている</p> <p>近隣の公園は4か所あり、思い切り体を動かして遊ぶ・公園の草花や虫探しをするなど、目的によって場所を決めている。天気の良い日には園庭で全クラスで遊び、年齢の高いクラスのこどもが時として夢中になり、小さなこどもとぶつかってしまった時などは、どうすれば良かったのかを保育士と一緒に考え、ぶつかってしまったこどもだけでなく、クラスでどうしたら安全にみんなまで遊ぶことができるのかを話し合い、こどもたちと遊ぶときのルールを保育者と一緒に考えている。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事に由来した食事やおやつを用意して、興味や関心を引き出している 行事では、何を子どもに経験をさせたいのかのねらいについて保育士同士で検討を行い、方法を話している。七夕では「七夕の由来や風習を知り、関心を持つ・友だちや保育者と集会に参加する事を喜ぶ」の2点のねらいを持ち、3歳児以上が参加している。プロジェクターやスクリーンを用意して天の川・夏の星空・織姫と彦星の話の鑑賞を行い、七夕の由来の話やシルエットクイズなどを行っている。給食には、色つきのソーメンや星形人参・おやつには、天の川ゼリーなど星に因んだ物を用意して興味や関心を引き出している。</p> <p>自分たちで作ったお神輿をみんなの前で練り歩き、達成感を味わっている 「やさいのパーティーおさわぎ」の絵本に振付をして保育士が踊ってみせた姿に誘発された子どもたちは、ポーズをとったりオリジナルの振付を考え踊ったりと楽しく参加している。役決めも一人ずつの意見を聞き決定してお楽しみ会に披露している。今年の夏まつり時の年長組を見てお神輿担ぎに期待を持っている年長組は、クラスの皆で話し合いを行い自分たちのお神輿作りをし2グループに分かれて園庭の中を練り歩き他のクラスの子どもに披露している。夏まつり後に玄関にお神輿を飾り保護者達にも披露して達成感を味わっている。</p> <p>年間行事予定を4月中旬に配布して、理解や協力を得ている 年度当初に年間行事予定を配付して参加行事日程を知らせ、保護者が事前に把握できるように配慮している。また園だよりでも毎月の予定を載せ電子アプリにて保護者に知らせている。行事への経過や取り組み時の子どもの様子を各クラスだよりやクラスボードなどに写真を載せわかりやすく知らせ、送迎時には、口頭で伝えている。運動会では親子競技を行い、競技を親子で共有することで楽しく参加できる工夫をしている。日々の保育を見てもらおう機会として、保育参加や保育参観を予定して理解や協力を得ている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育は少人数で、担当保育士とゆったりと過ごし心の安定を図っている 固定の延長保育利用児は、3名で18時15分より3歳児クラスで保育を行っている。スポット延長保育利用の申し込みも少なく担当保育士とゆったりした空間で心の安定を図っている。長時間保育用の玩具が用意されているが、部屋から持ち寄り好きな遊びの続きが出来ている。延長保育日誌にはクラス名・児童名・保育時間・お迎え時間・連絡事項を記入している。遅番から引継ぎを行い、連絡漏れのないようにしている。補食のおやつは18時15分から用意されていておやつを食べー息ついて遊びに向かっている。</p> <p>延長番の保育士は児童名やアレルギー児の確認を行い、安全に気をつけている 日々17時45分までクラス保育を行っている。延長職員の配置は、1名が固定の非常勤保育士でもう1名の保育士はシフト制となっている。固定の保育士が居ることで安心して過ごすことが出来る。スポット延長保育の利用は、延長保育児の定員に空きがある場合は、当日の17時までの電話連絡で利用できるようになっており、現在固定の延長保育利用児が少ないため、いつでも受け付ける事ができる。シフトで延長保育に入る保育士は、夕方事務室で延長保育利用児童の確認と食物アレルギー児の確認を行い、補食の検食をするなど安全に気をつけている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>担任も一緒にテーブルにつき、各テーブルで楽しく話をしながら食事をしている</p> <p>0歳児の食事は担当制となっており2~3人で1テーブルを囲み、一人ひとりに合わせテーブル付きの食卓椅子や椅子に背あてや足が床につくようにマットを用意して食事をしている。中期・後期食のこどもの食事はトレーに食札を置き食事形態に間違いがないように配慮している。幼児クラスの配膳は保育士が行い全員で挨拶をして食べ始めている。各テーブルで保育士も一緒に楽しく会話をしながら食事をして、正しい食事の仕方を知らせている。おかわりは「ハッピーセットですよ」と果物と他の副菜などと一緒に盛り付け、食事を楽しいものとしている。</p> <p>行事の時にはこどもたちの意見を取り入れ工夫を凝らした食事を、提供している</p> <p>毎月行われるスマイルの日には、こどもが楽しめる仲良しカレーの日と決め、こどもたちから意見を募り、ご飯に国旗を刺したアイランドカレー等園独自のオリジナルカレーを調理師が趣向を凝らして提供し、こどもの楽しい気持ちを高めている。その他の行事にも栄養士や調理師と相談をして、保育士・こども達の意見を取り入れ、運動会にはカツカレー、就学祝賀会には唐揚げ・選べるパン、夏まつりには屋台風に入れた焼きそばを提供して遊びを盛り上げる工夫を行い、こども達の園生活がさらに楽しい雰囲気になるように一役買っている。</p> <p>野菜の栽培やクッキングを行い、食に対する興味や関心を深めている</p> <p>栄養士が立案した年間の食育計画を基に各クラスで野菜の栽培やクッキングに取り組んでいる。園庭にポップコーン・つるなしインゲン・パブリカ・きゅうり・すいかの苗をこどもたちが植え毎日水やりを行い生長を観察し、収穫したものを調理室で調理して給食で食べている。年長児は防災公園にサツマイモを植え収穫の日を楽しみにしている。クッキングではとうもろこしの皮むきやインゲンのすじとりを行い、今後収穫したサツマイモを使った調理を計画している。栽培したものを収穫したり食べる事で自然の恵みを知るなど食に対する興味や関心を深めている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>看護師は健康教育でこどもが自分の体に興味を持ち、元気で過ごせるように支援している</p> <p>看護師は年間保健計画を立案し、年間の健康教育を行っている。「自分の体に興味を持とう」と幼児組に向けて、手洗い・お尻の拭き方・体の名称など多岐にわたり知らせている。手洗い指導では「手洗いチェッカー」というクリームを塗り、手洗いをしてブラックライトで照らし、手の汚れの浮き上がりを見せ、丁寧な手洗いの大切さを知らせている。他に安全ルール・歯科衛生・目・命の話など、こども達が自分の体に興味を持ち、元気に毎日を過ごすきっかけ作りを行っている。また、看護師は視覚資料を用いて視力検査を行い、結果を保護者に渡している。</p> <p>専門機関や嘱託医と連携を取り、一人ひとりのこどもに合わせた健康管理に努めている</p> <p>個別に支援が必要なこどもの専門機関に保護者と共に行き対応の仕方を学び、共通理解を行い個別支援計画を立て日々の生活が安全に出来るように配慮している。嘱託医による定期健康診断は、0歳児は毎月行いその他の年齢では年に2回、歯科健診も年に2回行い、終了後の結果や毎月の身体測定など健康カードで保護者に知らせ受診が必要な場合には、受診後の治癒証明を受け取り健康管理に努めている。日頃より嘱託医とは連携があり怪我の受診の必要性など電話で助言を受けている。連絡のない欠席者には、園から連絡を入れこどもの状態の確認をしている。</p> <p>感染症の全体掲示やSIDSの予防について保護者に知らせ、注意喚起を行っている</p> <p>入園前のオリエンテーションにて睡眠時におこるSIDSについて説明を行っている。日々の保育の中では、午睡時の体を仰向け寝として呼吸や顔色を各年齢の時間ごとに確認をして記録を行い予防をしている。また、保護者には体調の変化や様子を知らせ早めの受診を働きかけている。感染症発生時には、玄関右横のボードで情報を知らせ注意喚起を行うほか、アプリでも流行中の感染症について知らせている。看護師は嘔吐処理・アドレナリン自己注射薬の取り扱いについて職員に向け研修を行い、すぐに対応が出来るように安全管理に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の個別事情に配慮し、日々の園長の声かけにより信頼関係の構築に努めている</p> <p>入園前面談で保護者の就労や家庭状況を聞き保育時間の確認を行っている。就労形態の変更や急な残業などにより時間延長をする際に当日の17時までに電話連絡をもらい、スポット延長保育を行っている。また、急な土曜日保育についても当日でも受け保護者の就労の支援を行っている。送迎時や連絡帳にこどものエピソードを交えて園での様子を伝えコミュニケーションを取ることを心がけている。必要に応じて個人面談を行い、保護者の思いや要望などを受け止めている。園長が朝夕と玄関に立ち、声をかけ寄り添うことで、信頼関係が構築されてきている。</p> <p>懇談会ではアイスブレイクタイムを設け、保護者同士の交流が持てる機会を設けている</p> <p>懇談会では、こどもたちの日々の生活をスライドショーやパワーポイントを使い視覚で知らせている。保護者同士の交流を図るためにアイスブレイクタイムを設け「私の推し・一億円が当選したら？無人島に持っていくならば？」など、保護者向けの質問やこどもの好きな絵本、好きなおもちゃ、お薦めの公園の紹介や、家庭の日々の生活の様子や悩みなどを語り合い、和やかな会として進めている。あるクラスの保護者には、日々のこどもの保育から恐竜の足跡作りをお願いし、個性豊かな色々な足跡作りの制作に楽しんで参加している。</p> <p>保護者と共通認識を持ち、養育力向上のためにこどもの姿を様々な媒体で伝えている</p> <p>毎月の園だよりでは、園長の保育で大切にしたい事を伝えこどもの姿を「スマイルな話」として載せている。また絵本の紹介をして親子で会話が弾む工夫もしている。園では絵本に親しんでもらうために貸し出しを行っている。看護師は健康教育の話を園だよりに載せ家庭での話題としてこどもと話すなど養育力向上に役立っている。園だより・連絡帳やクラスだよりは2～3か月に1度程度、写真を交えた物を載せ日々のこどもの姿を保護者に電子アプリで伝えている。幼児組は、クラスボードを使いその日の保育の様子を知らせ共通認識を持てるように図っている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用したり、近隣の園と交流の機会を設けている</p> <p>天気の良い日には近隣の公園へ出かけたり、図書館に行って地域資源を活用し、好きな本を借りて読んでいる。また、起震車体験を行い試乗する際の注意を教えてもらったり、交通安全教室では、警察官の人から道路の歩き方を聞くなど、こどもたちに様々な地域資源を活用し体験できる機会を増やしている。年長児は近隣の3園と交流の機会を設け、輪番で各園を回り運動遊びを行ったり、運動会で行った演技を見せあっている。毎年恒例のドッチボール大会で優勝園は、トロフィーをもらい歓喜し、次回の交流を楽しみにしている。</p> <p>マイ保育園登録やにこにこタイム利用児など、職員以外の様々な人と、交流を行っている</p> <p>外掲示板に行政からの、健やか子育てたより、すくすくパワーだより、にこにこタイムのポスターを掲示している。近隣に向けて行事のポスターを掲示して参加の呼びかけをしている。育児応援券を使って園に遊びに来たこどもには、食事の提供も行い園生活を知ってもらっている。マイ保育園の登録者には園だよりなどの配信や、にこにこタイムの参加者には、夏まつりや水遊びを一緒に行い、交流を図っている。近隣の看護学校からの実習生や保育学校の実習生が来て、全クラスに入ってもらい、一緒に過ごすなど、職員以外の人との交流を行っている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	地域に開かれた保育園を目指し専門性を活かして地域の子育て支援を充実させている	
内容①	園の目指す姿に「地域に開かれた保育園」を掲げ、園の機能や専門性を活かして子育て支援プロジェクトチームが主体となり、保護者支援と地域の子育て支援計画を策定して実践している。保育園見学会や地域子育て支援にこころタイム(年5回の催し企画)、給食試食を含む体験保育、園庭開放や子育て相談を積極的に案内して実施している。区の仕組みである育児応援券やマイ保育園登録(現在3名)もあり、園企画の催しには毎回満員になるほど好評である。また自園を含む近隣3園の保育園と年長児の交流を行い、お互いに保育の質向上を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	職員会議の進め方を小人数グループの話し合い方式に変更し職員間の同僚性を高めている	
内容②	園長は職員会議で月案反省をクラス代表が発表していた従来の方式を、小人数グループの話し合い方式に変更している。職員会議は月2回行い、前半は園内研修や研修報告を中心に、後半は定例会として小人数グループで保育を語り合う事や、お互いの保育観を伝え合う事を中心とした開催に変えている。勿論事務連絡や検討事項、報告もあるが、若い職員も話しやすく意見交換が活発になり、月2回の職員会議は職員間の同僚性が高まり、良好なコミュニケーションが取れるようになっている。職員調査でも多数の肯定意見があり、良い職場環境づくりに繋がっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	クラスの月の目標をスローガンとして表示をして、保護者にわかりやすく提供している	
内容③	園では、クラス別の指導計画として、年間、月案、週案を作成しそれに基づいて日々の保育を行っている。月のスローガンや週案を保護者に掲示し活動内容が見えるようにしている。月の保育のねらいの今月のスローガンについては年度初めの保護者会で説明をし、例えば3歳児の9月のスローガンの「いろいろなものになって楽しくあそぼう」をクラスの入り口の掲示板に貼りだしている。このスローガンに対する具体的な内容については、クラスで立案した週案やその日の活動の様子も掲示し、こどもの活動の様子やねらいを保護者が把握できるようにしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	お化け屋敷をやってみんなを驚かせたいという子どもたちの思いを受け、一人ひとりの心を大切にしたいクラスでの取り組みとしている
	内容	お化けに興味を抱いた子どもが絵を描いたことからクラス内で「お化け屋敷をやってみんなを驚かせたい」と話が盛り上がる。どんなお化け屋敷にしたいか・どうやって驚かせたいか等のアイデアを一人ひとり声に出し合い進め、図鑑や絵本からどんなお化けが居るのか調べたり、必要な物は何かの準備をしている。イメージがわからない子どもたちには、興味を持った妖怪のお面の提供をして色塗りをする等思いを引き出しクラスみんなで一つの物を作り上げ、他のクラスや委託の調理師さんを招いてみんなに「怖かった」と言ってもらって充実感を味わっている。
2	タイトル	園庭で野菜の栽培をし生長や自然の育みに触れたり、行事の日には子どもたちの要望に合わせた食事に変更して食に対する意欲を育てている
	内容	園庭ではポップコーン・いんげん・パプリカ・キュウリ・スイカ等の苗を植え、子どもたちは毎日水やりをして成長を楽しんでいる。スイカが4つも実り、みんなで食べたことから幼児クラスでは夏の歌として♪スイカのめいさち♪の歌を熱唱している。また、いんげんの筋取りやトウモロコシの皮むきなど、子どもたちのクッキングや栄養士によるライブキッチンも取り入れ、子どもたちの意欲を盛り上げている。行事の一つであるスマイルの日のカレーや七夕・運動会・就学祝い会と子どもの要望を取り入れた食事に変更して、食に対する意欲を育てている。
3	タイトル	園の目指す姿の実現に向けてプロジェクトチーム制をとり、各職員が主体的に計画し実行する事で園の課題解決や保育実践に反映させている
	内容	園目標の実現に向けて、昨年は6つのプロジェクトチーム(PT)を作り、園の課題解決に努めてきたが、年度の振り返りを行い、役割の重複や数多くある事で活動が分散してしまう等の反省を踏まえ、今年度は4つのPTに整理している。園内研修PT(人権研修含む研修や公開保育他)、福祉避難所・応急保育所PT(業務継続計画を主体)、危機管理PT(安全計画を主体)、子育て支援PT(地域の子育て支援企画他)の役割を明確にして既に活動が進み、各PTの参加メンバーが主体的に活動し職員会議内で報告する仕組みも機能し保育実践に反映している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	単年度事業計画には今年度の重点や4つのプロジェクトチーム活動、職員の育成他具体的な目標も加えて明示し職員と共有する事に期待したい
	内容	園の中長期計画は分かりやすく、保育の質と同僚性の向上、災害・安全管理、子育て支援、地域交流の4カテゴリー別に年度の目標を明示している。昨年度の振り返りは園長自身で考え副園長に相談しており、公開保育の意欲的な取り組みや人員確保の取り組みは今年度に活かして職員に周知している。中長期計画を踏まえた単年度事業計画は園長が今年度から作成しているので、今後は園の強みである4つのプロジェクトチームの活動について役割や期待する事、今年度の目標も明示し、また職員の育成他具体的な目標を明確にして職員と共有する事に期待したい。
2	タイトル	事故の未然防止に向けたヒヤリハット管理は、気が付いた時にすぐに記載できる簡便な運用方法を検討し、実施に繋げる事に期待したい
	内容	園は事故の未然防止に向けてヒヤリハット管理を行っている。ヒヤリハットは各クラスの職員が定型の様式に記載してクラス内で共有、また回覧や朝礼、職員会議で全職員と共有している。様式はアレルギー児、給食、通常のヒヤリハットと3種類に分類しているが、毎月1件程度の記載に留まっている。様式への記載が負担となる課題がある事から、ヒヤリハット本来の事故の未然防止の目的を再周知し、園の運用方法を参考例として気が付いた都度付箋に記載し事務室に貼っていき月度で集計分析をして気づきを共有する等、簡便な運用方法の検討に期待したい。
3	タイトル	運営に必要な会議や園内研修が行われているが、記録を通して話し合いの経過や決定内容が把握できる記録の方法の工夫を期待したい
	内容	園内では職員会議をはじめ、リーダー会議、クラス打ち合わせ、給食会議や園内研修、公開保育の取り組みなど様々な方法で話す機会を持っている。会議の内容はその都度記録されているが、後日記録を通して出された意見や決定内容を把握することの難しさや公開保育で話された環境に関する話し合いは次年度にも活かせる内容と思うが、どのような話し合いで改善されたのかの記録が不明になっている。プロジェクトチームの計画に対して、PDCAを回した話し合いを通じた記録作成への期待と各種会議の意義や持ち方などの方針の検討も期待したい。